

第3回検討会の議論のポイント（案）

- (1) 実施されている取組みについて、連携・調整・改善等すべき点はないか。
- (2) 取組みが不十分である分野はないか。
- (3) 昨年の取りまとめにはない新たな課題等はないか。

<資料2「取組み事例」において空欄となっている分野>

(Ⅰ造船技能者、Ⅱ造船技術者に共通)

1-①-c 業界団体等による造船業界の効果的な広報(CM放送等)

→ CM放送の他に効果的な広報手段がないか？

(参考)

- ・小中学生向けDVD「船をつくる/教えて!船の中!!/船の不思議ゼミナール」を製作し、「進水式見学」「ものづくり体験講座」の事前学習用に配布(中小造工)
- ・日本BtoB広告賞(一般社団法人日本BtoB広告協会)
 - ジャパン・マリン・ユナイテッド(株)のリクルートサイト(2014年金賞)
 - 三井造船(株)の企業カタログ(2015年銀賞)、ポスター(2015年銅賞)
 - 尾道造船(株)のウェブサイト(2015年銀賞)
 - 川崎重工業のウェブサイト(2015年銅賞)
- ・サノヤス造船(株)のテレビCM「造船番長」「造船係長」
- ・今治造船(株)のテレビCM「造船の町に生きる」「PPRIDE OF IMABARI」

1-②-a	新卒者等の地元へのUターンに向けた採用活動強化
1-②-c	日本の造船技術力、海洋等の新分野への取組等をアピールした採用活動を実施
1-②-d	企業/業界による奨学金の設立
1-③-a	福利厚生の変なる充実や賃金等の処遇向上魅力ある労働条件の構築
1-④-a	工場の環境改善(移動式建屋・換気対策等)の促進

→ 基本的に個別企業が取り組む課題であると考えられるが、業界での取組み、産学連携、国の役割などの観点で、効果的な方策があるか？

(Ⅰ造船技能者)

1-③-b 柔軟なキャリア形成(技能職から技術職への職種変更、希望に応じた配属)

1-③-c 能力に応じた処遇を行うための、能力評価基準の作成

→ 基本的に個別企業が取り組む課題であると考えられるが、業界での取組み、産学連携、国の役割などの観点で、効果的な方策があるか？

1-④-b	女性の採用と定着に資する安全作業・職場環境の改善(指針の策定等)
-------	----------------------------------

- 造船業における女性の参画や活躍を促進すべき分野や工程としてどのようなものがあるか？(技能者/技術者、他産業との比較などの切り口で)

(参考)

- ・厚生労働省長崎労働局による先進事例の紹介
 - 男性型職場で女性技能職を積極的に採用(大島造船所株)
(高校卒女子技能職の採用を継続し、職場環境の改善や女子寮の新設など生活環境を整備したとして、2009年に「長崎労働局長優良賞」を受賞。)
 - 企業内保育所を設立した事例(三菱重工業株)
- ・経済産業省と東京証券取引所が、女性活躍推進に優れた上場企業を選定し、公表している「なでしこ銘柄」として、川崎重工業を選定(平成26年度)

3-b	設計と現場の一体化(タブレット等の活用による設計と現場のリアルタイム情報共有)
3-c	作業の自動化の推進(ロボット技術の開発・導入)

- IT導入による効率化、ロボット技術による自動化が可能な工程はあるか？
→ 基本的には企業間の競争であるが、共同研究、基礎技術開発が望まれる分野はあるか。

(参考)

- ・ドローンを活用した造船工程の効率化の実証実験(常石造船)

(II 造船技術者)

1-③-b	実習等終了後における希望に応じた配属の実施
1-③-c	優れた設計に対する適正評価

- 基本的に個別企業が取り組む課題であると考えられるが、業界での取組み、産学連携、国の役割などの観点で、効果的な方策はあるか？

3-a	設計技術者の有効活用(共同出資による外注設計会社の設立等)
-----	-------------------------------

- 共同出資の外注設計会社の設立のニーズがあるとすれば、設立が進まない理由は何か？(知的財産保護の観点からの課題はあるか？)
→ 海外の設計会社への外注が増加しているようであるが、懸念や課題はないか？
→ 設計現場の効率化の観点で、効果的な取組みはないか？